里山BONSAI

URBAN SEED BANK

ダイバーシティ
多様性を
実現する
BONSAI

福祉支援と
里山保全に
つながる苗木

日本の
森林を
活用する器

里山BONSAI、里山ユニットのご注文はこちらから!

https://urbanseedbank.com/

お問合せ先

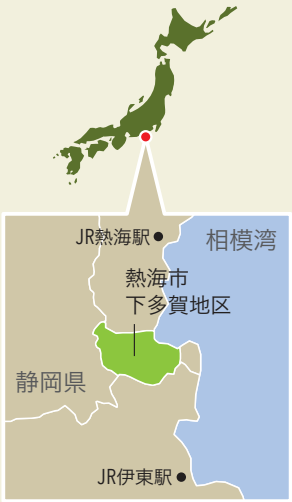
アーバン・シード・バンク事務局 里山BONSAI係
(株式会社環境ビジネスエージェンシー内)

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-27-4　大手町I・Tビル8階
URL: http://www.ebagency.jp/　**Email:** mail@urbanseedbank.com

TEL.03-3296-8655 (平日10:00-17:00)
FAX.03-3296-8656

「熱海の森」周辺の様子

熱海の森の話



「熱海の森」の周辺の町と歴史

「熱海の森」は温泉観光地として有名な熱海の中心街と伊東市の中間に位置する、熱海市下多賀地区にあります。多賀火山帯に隣接し、眼下には相模湾を眺望できます。かつて薪や炭、ホダギの採取地として、近隣の人びとの生活と密着につながっていました。

里山とは？

「里山」とは、集落、人里に接した山を、私たちの祖先が生活の拠点として守り続けてきたことにより、生態系が調和している状態を指す言葉です。里山の生物多様性は私たちに豊かな恵みを与えてくれます。

いま、「熱海の森」で起きていること

一見美しい熱海の森

一見美しく見えるこの「熱海の森」ですが、中に入ると木々が密集し真っ暗で生物の気配を感じない森です。

この森は、ほぼ半世紀にわたって放置され暗い森に変わってしまいました。手入れをしながら大切な森の資源を使い続けるという循環が断たれ、台風等自然災害による倒木や鹿の食害などによって、鹿の忌避植物であるシキミ、ヒサカキ、ヒイラギ等の小中径木常緑樹やつる植物が生い茂り、土壌は流出、陽光が差し込まなくなりました。

下草も生えない痩せた土壌のこの森は、森林の公益的機能である水源涵養や土砂災害防止などの大事な役割を失い、昆虫や鳥といった多様な生物を見かけることもなくなりました。

資源の循環が断たれ、倒木が相次いでいます

現場からはこんな声が……

荒れ果てた里山に心が痛みます。

里山という身近な存在が、放置され荒れ果てているのを見るのは心が痛みます。里山は私たちの祖先が残してくれた、すぐれた森林の物質循環システムであり、日本人の心の原風景だと思っています。そして、大事なことは、人びとの手によって作り上げられたこれらの森は、人が少し手を貸してやらないと、豊かな森として存在し得ないのです。「多様性豊かな里山の姿を取り戻し後世へつなげていく」そんな思いで熱海の森林保全活動をやっています。

佐藤憲隆さん

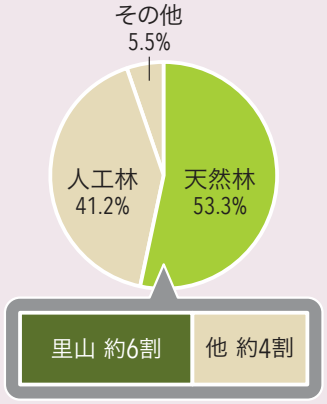
熱海の森フォレストマネジャー／NPO法人全国森林インストラクター神奈川会会長。「プレゼントツリー熱海の森」の森林再生活動のマネージャーを担う。その他、森林インストラクターとして、神奈川エリアでの森林整備や子供たちへの環境教育に尽力している森林のエキスパート。

里山の現実

日本の国土の7割が森林で、その半分は天然林、その天然林の6割がいわゆる「里山」と呼ばれています。戦後の高度経済成長とともに、産業構造や生活様式が急激に変化することで人の手が入らなくなった里山。里山の約6割は、「人の手を入れないと、国土として脆弱性を孕み、そこに在る生態系、特定の植物が消失してしまう可能性が高い」と言われています。

例えば、熱海の森のようなかつてコナラ林であった里山であれば、放置されることにより、タケ類・ネザサ類の侵入・繁茂で樹林更新・遷移が阻害され森林構造が単純化し、さらに遷移が進行することにより常緑樹林に移行、特有の生物が消失する可能性が示唆されています。そして、熱海の森においては、いままさに現在進行形で進んでいる状況です。

日本国内の森林の内訳



日本の天然林の約6割は里山。このまま放置すると、植物が消失していく恐れがあります。

このままでは、日本の里山は滅びてしまいます。

そして、いま、日本に昔からあった草や木の約25%が絶滅の危機に曝されています。その多くは、里地里山に分布しているのです。

いますぐ、行動が必要です！

里山機能回復の為、国や自治体では法律や条例を整備し、制度や事業を設立、推進しています。また、NPOなどの市民団体を中心に地域ごとの里山整備も各地で活性化しつつあります。よく知られている例としては、新潟県佐渡市のトキ野生復帰プロジェクトがありますが、地域住民と行政が連携して将来的にトキが営巣する森林の整備を行い、えさ場になる田んぼ等の無農薬農業を推進することで、一度絶滅したトキの野生復帰を成功させた事例です。しかし、まだまだ全国の里山が荒廃するスピードには追いつきません。

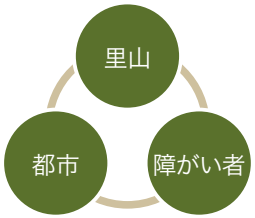
一方、私たちが都市で目にするヒートアイランド対策や景観保全のための都市緑化は、コスト面や調達の容易さから外来種で構成されることがほとんどで、そのため在来種の利用は全体の1.1%程度にとどまっています。

苗木を都市緑化につなげる方法があります

もっと身近に、都市緑化の多様性を高め、かつ里山機能を回復させる方法は……？　そのひとつに、真っ暗な森では発芽できず埋まっていた種（これらの種子を「シード・バンク」といいます）を、森を整備して光を当てることで発芽させ、その苗木を都市緑化に活用する方法があります。

アーバン・シード・バンクの取組み

URBAN SEED BANK



アーバン・シード・バンクは3つの課題を同時に解決するプロジェクトです

地中に眠る在来種の種から育てた苗で都市部の緑を豊かにし希少な日本の植物を守り、同時に里山に資金を還元すること。それは、里山の保全や再生にも繋がる。そんな思いから『アーバン・シード・バンク』プロジェクトが生まれました。

そのアイテムのひとつ「アーバン・シード・バンク里山BONSAI」は、売り手（里山）が元気をとりもどし、買い手（都市）は緑や生物で潤い、作り手（障がい者）の就労を支援する、3つの課題を解決するプロダクトとして皆さんのお手元に届きます。

都市の人びとが生活の中で里山の緑を愛でることによって、少しでも日本各地の忘れ去られた里山に興味を持ち、その緑の供給地である里山を訪ねることで、荒廃した里山地域の継続的な再生、保全に繋げたいと思います。それは、苗と製品の作り手である福祉施設の皆さんへの支援にも繋がります。

いのちの多様性を守る、私たちの未来をかえるプロジェクトです

里山BONSAIは、身近に四季を感じ、自然を愛でることができるBONSAIです。

里山BONSAIの苗木代は、里山整備ボランティアや福祉作業所の収入となり、持続可能で継続的な里山保全活動と福祉的就労を支援することが出来ます。

里山BONSAIのプランターは、国産間伐材を利用することにより、森林資源の有効活用に繋がります。　間伐材を活用することは荒廃した国内の森林を元気にし、地球温暖化抑止他、生物多様性保全や土砂災害防止などの森林の公益的機能の回復に役立ちます。

里山BONSAIの生産工程では、いのちの多様性を大切に考え、障がい者の自立支援に貢献する「仕事」として福祉施設へ製造を委託しています。

福祉施設の障がい者の手によって苗木の製造が行われています

熱海の森に育つ苗木

「里山BONSAI」の手入れは、驚くほど簡単です

「盆栽」のような難しさは、「里山BONSAI」にはありません。次の点を心に留めておけば、どなたでも育てられます。

1. **苔が乾いたら、ハス口付のジョウロを使ってたっぷり水をあげてください。**
2. **植物は日当たりのよい場所を好みますが、真夏の直射日光は避けることをお勧めします。**
3. **プランターは木製品ですので、乾燥によりヒビが入る場合があります。そんなときは木製品用パテでヒビを埋めていただくことで長くご愛用いただけます（右写真）。**
4. **苗木の剪定は特に必要としませんが、お好みで剪定される場合は年に1～2回程度がお勧めです。**

たっぷりの愛情をお忘れなく！植物もそれに必ず応えてくれます！

木製品用パテを使えばプランターのひびが簡単に埋められます

「里山BONSAI」プロジェクトの歩み

企業、NPO、福祉作業所が連携しています。

はじまりは PresentTree

「人生の記念日に樹を植えよう」と呼びかけ、過疎の進む全国各地の皆伐放置林等に樹を植えて、その樹に首都圏の人達が里親として張り付き、自身の大切な記念の樹として、以後10年間、地元の人達と共に育てていく活動＝PresentTree（プレゼントツリー）。事業化10年経って、このビジネスモデルでは解決できない、森林再生の必要性に迫られました。それがアーバンシードバンクの発端です。

環境事業に特化した企業とNPOが協同運営

本プロジェクトの企画運営は、長年プレゼントツリーに携わってきた株式会社環境ビジネスエージェンシーと認定NPO法人環境リレーションズ研究所が連携しております。

［環境ビジネスエージェンシー］ http://www.ebagency.jp/
［環境リレーションズ研究所］ http://www.env-r.com/

エコプロダクツ大賞
特別賞を受賞

地域性在来種苗のみを使用

里山BONSAIは地域性在来種苗のみを使用していることが特徴の商品です。2016年現在、主に熱海の里山、神奈川の福祉作業所で育てた苗木を使用しています。

第12回エコプロダクツ大賞特別賞

「アーバン・シード・バンク」プロジェクトは、荒廃里山の手入れ再開や「シードバンク」など未利用資源の有効活用が期待される点、従来、都市緑化で使われてきた外来植物を在来植物に替えることで都市の生物多様性の向上に寄与する点が評価され、「第12回エコプロダクツ大賞特別賞」を受賞しました。

「里山BONSAI」の生産を担う人とは？

「さまざまな木が入りまじって生えている里山のように、人間もいろいろなタイプが支えあっている。アーバン・シード・バンク・プロジェクトに強く共感するので、協力させて欲しい」。そんなお申入れをくださったのが社会福祉法人進和学園。「里山BONSAI」を福祉作業所で製作することで、障がいをお持ちの方々の働き甲斐を育み、「福祉的就労」の雇用創出の役割を担えれば！そんな想いから里山の緑を手元にもおけるサイズにし、障がい者の方々が取扱いやすい「里山BONSAI」の開発が始まりました。

今回「里山BONSAI」の製作を担う社会福祉法人進和学園は、知的障がい者の方々が働く障害者福祉施設です。同園は横浜国大名誉教授の宮脇昭先生の指導のもと苗木育成事業である「いのちの森づくり」プロジェクトを2006年からスタートしています。

「自然の森は色々な種類が混ざり合っている。仲の良いものだけを集めても駄目。人間社会も同じ。混ぜる。混ぜる。……」

という宮脇先生のメッセージは、個性を尊重して共に生きるという障害者福祉の理念に通ずるものです。

「里山BONSAI」ではここで育てた神奈川産の苗木も使います。また、このプランターを製造する過程で障がい者の自立支援に貢献する「仕事」が提供される仕組みです。

お客様・ご協力者様から ご支援の声が届きました！

里山BONSAI プロジェクト支援者 J.Y. さま

素敵なプロジェクトなので是非応援したいと思い、ほんの少しですが、参加させていただきました。今後のプロジェクトの報告を楽しみにしています。

里山ユニット購入者 ビーバイ・イーさま（港区南青山）

季節の移ろいを感じられる色のお花や木の実などで、オリジナルの里山を作って頂きました。

バルコニーに自然が感じられるようになり、これから四季の移り変わりがとても楽しみです。

里山ユニット購入者 リノベ不動産さま（横浜ショールーム）

昨日は、ユニットの納品ありがとうございました。あの後、ビルのオーナー様もお見えになり側道側に置いたユニットが凄くイイ!と喜んでおられました。殺風景だった通りも、これから道行く人達にユニットの季節ごとの面持ちや成長を楽しみにしてもらえるようになるよう、社員一同楽しみに大切に育てていきます(^^)v

里山ユニットで店舗前を彩っています！ありがとうございます。

商品のご紹介

里山BONSAI、里山ユニットの商品の一部をご紹介します。

「里山ユニット」シリーズ

「里山ユニット」は、オフィスや店舗前スペースなどのサイズに合わせ、ユニット単位でご注文いただける商品シリーズです。屋外であれば、どこでも設置できます。

商品名	里山BONSAI	25cube	狭小	50cube
容器サイズ（mm）	Ø300×H250	250×250×H250	300×800×H250	500×500×H400
植込の高さ（mm）	約600	約800	約1000	約2000
重さ	約5kg	約14kg	約55kg	約91kg

● オーダーメイドなら様々な形で製作できます。
● 地域性在来種苗を使用しているため、設置エリアには制限があります。

詳しくは https://urbanseedbank.com/